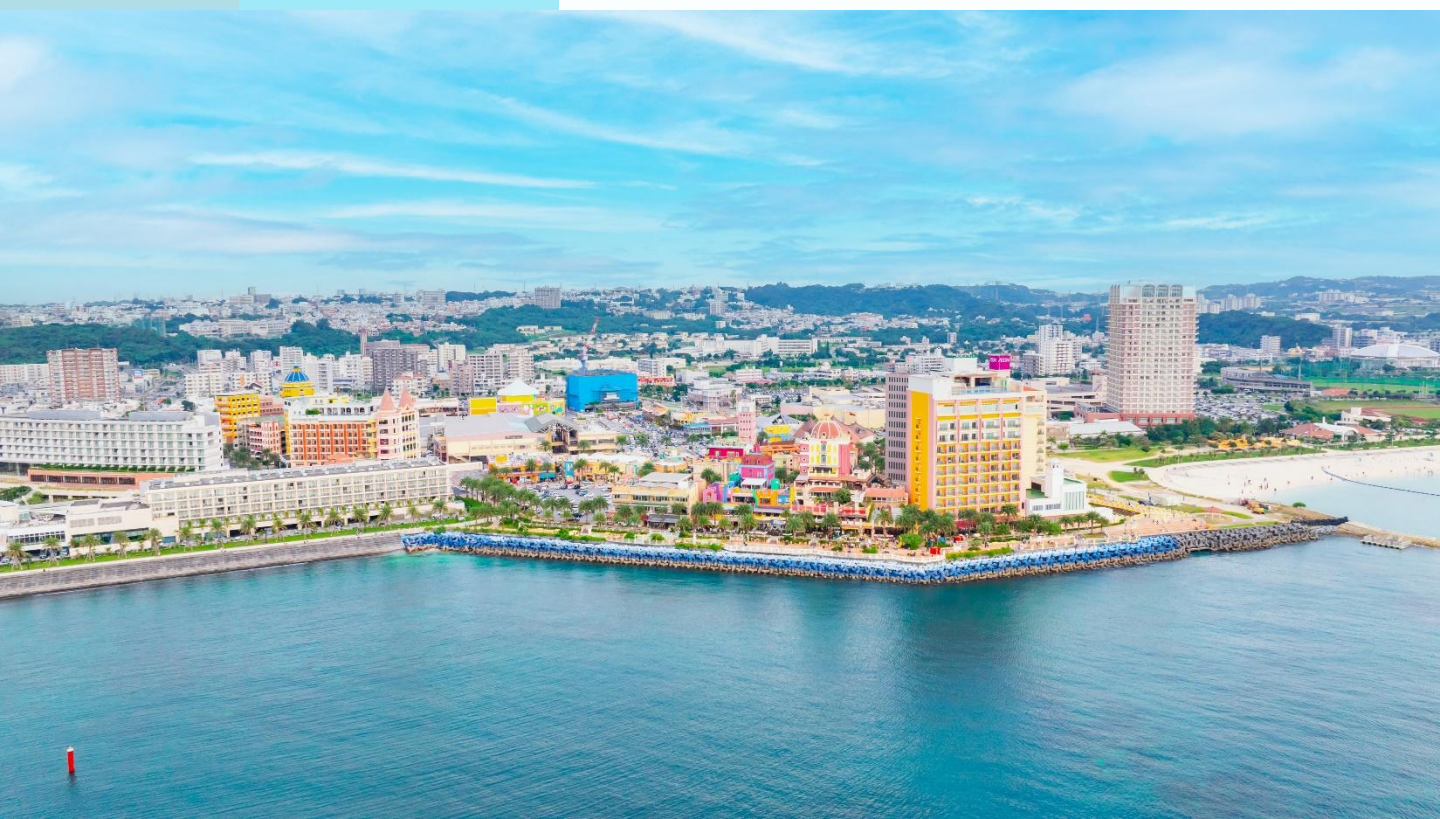


概要版



第2次北谷町観光振興計画

海とまちが交わり、暮らしと旅が共鳴するタウンリゾート





1 はじめに

計画策定の背景と目的

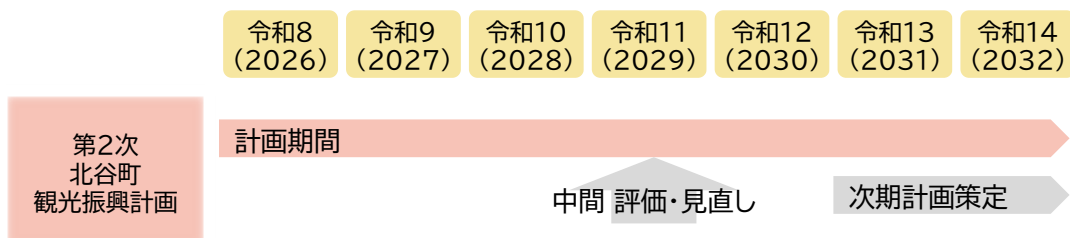
沖縄県中部に位置する本町は、美浜アメリカンビレッジを中心に、リゾートホテル、ショッピング、飲食、エンターテインメントが集積する観光地として発展してきました。また、サンセットビーチやアラハビーチなどの自然環境にも恵まれ、国内外から多くの観光客が訪れています。

一方で、観光需要の増加に伴う交通渋滞や環境負荷、町民生活への影響といった課題も顕在化しており、持続可能な観光のあり方が問われています。さらに、観光ニーズの多様化やデジタル化の進展、新型コロナウイルスによる観光形態の変化など外部環境も大きく変化しており、従来型の観光振興だけでは十分に対応できない状況にあります。

このような背景から、第2次北谷町観光振興計画は、観光を通じた経済的効果の創出、文化・自然環境の保全、町民生活との調和を図る包括的な指針として位置づけ、観光を取り巻くあらゆる状況変化に対応する施策を展開し、町の魅力を国内外に発信していくとともに、持続可能な観光産業の発展に寄与することを目的としています。

計画期間

第2次北谷町観光振興計画の期間は、本町全体の方針と観光振興を足並みそろえて進めることを考慮し、令和14(2032)年度までの7年間とします。これは、現在の第六次北谷町総合計画の次期計画が令和14(2032)年度から開始となる予定であり、次期観光振興計画は、この次期総合計画をもとに令和14(2032)年度中に策定することを見込んだものです。



2 北谷観光の特徴



本島中部の主要観光地域

本町は、首里城や美ら海水族館など本島南部・北部エリアの主要な観光スポットと並ぶ本島中部エリアの主要な観光地域となり、特に美浜アメリカンビレッジ地区及び北谷町フィッシュアリーナ地区は国際色豊かな飲食店や物販店が立ち並び、老若男女問わず観光客の誘客力の高い観光地域となっています。



沖縄リゾートを代表する都市型オーシャンフロント・リゾート地

西海岸地域は、美浜アメリカンビレッジ地区及び北谷町フィッシュアリーナ地区を中心にビーチやボードウォーク、公園、商業施設、宿泊施設などがコンパクトに集積し、世界で通用する観光リゾートの雰囲気を感じながら徒歩や域内交通等で回遊できる「都市型オーシャンフロント・リゾート地」を形成しています。



マリナクティビティ等の充実と夕日の魅力

本町は、西海岸一帯で海の恩恵を享受し、宮城・砂辺海岸におけるダイビングやサーフィンなどのマリナクティビティをはじめ、家族が気軽にマリナレジャーを楽しむサンセットビーチや約600mの砂浜が続き開放感あふれるアラハビーチを有しています。また、広大な水平線に沈む夕日はダイナミックで国内外を代表する自然景観であり、季節ごとに変わる夕日の美しさは最大の魅力となっています。



リゾートホテル等の宿泊施設が集積したエリア

本町は、本島北部・南部や東海岸の観光に行くにも優れた立地にあるとともに、周辺地域と比べ、リゾートホテル等の多様な形態の宿泊施設が充実していることから、沖縄県における滞在型観光拠点のひとつとなっています。



美浜公共駐車場や交通アクセスの多様性

本町は、沖縄県の観光地域では類をみない約1,500台収容可能な無料の公共駐車場である美浜駐車場を有しています。また、那覇空港から約40分圏内に位置し、国道58号に隣接していることから、多様な交通手段によりアクセスできます。さらに、沖縄県と連携した観光2次交通結節点の整備の検討が進んでいます。



集客力の高い観光イベント

民間活力による毎週土曜日の花火打上をはじめ、11月～3月は街を彩るクリスマスイルミネーションの点灯、美浜アメリカンビレッジ地区及び北谷町フィッシュアリーナ地区を中心にボードウォークやサンセットビーチを活用したエイサー・音楽・ダンスイベントなど、本町の持つ自然・風習、地域に誇る伝統文化を活用した集客力の高い観光イベントが年間を通じて多数あります。



外国人観光客（インバウンド）にも対応した観光案内所

本町は、日本政府観光局(JNTO)認定の外国人観光案内所・カテゴリ2を有し、英語で対応できるスタッフの常駐をはじめ韓国語にも対応でき、町内外の広域的な観光案内を提供しています。



3 北谷観光の課題

国・県の動向、町の現状、アンケート調査・ヒヤリング調査の結果を複合的に整理し抽出した本町の観光の課題を、「来訪者」、「観光事業者」、「町民」、「自然・文化」、「安全・安心」の各観点で整理しています。

第2次北谷町観光振興計画は、これらの課題を踏まえて策定しています。

来訪者の観点

- 二次交通や回遊性が不十分なことによる移動の利便性の不足
- 多言語対応や案内の拡充
- 本町ならではの経験や地元の人々との交流の機会の不足
- 市町村としての認知度

観光事業者の観点

- 滞在型観光コンテンツの不足
- 宿泊・飲食・ショッピングが中心で、歴史・文化・芸能を含む体験型や高付加価値型のコンテンツが不足
- おもてなし力・マーケティング力・多言語対応力・カスタマーハラスメント対応力の強化の余地
- 民間と行政の関係の強化の余地
- 来訪者の多様な移動ニーズへの対応

町民の観点

- 観光客増加・オーバーツーリズムによる、生活圏の圧迫感の肥大、交通渋滞の慢性化
- 騒音、ごみ、喫煙、その他のマナー・モラル、違法駐車・交通違反の問題など観光公害への不安
- 町民も楽しめる環境の整備・イベントの開催の不足
- 観光収益の地域への還元の的確な可視化の不足

自然・文化の観点

- ビーチや海岸の利用集中による自然環境への負荷、海洋ゴミ・景観維持の問題
- 文化財の保存と観光利用の両立

安全・安心の観点

- 台風・津波・地震など災害リスクへの観光危機管理
- 治安・防犯の強化
- ユニバーサルデザインの拡充の余地

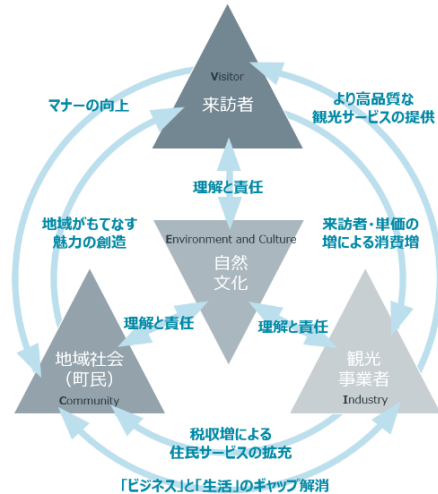
4 基本構想



基本理念

本来、観光振興は一部の利益追求にとどまるものではなく、観光に関わる全ての主体がそれぞれの立場や役割を理解し合い、互いにメリットを享受できる形で推進されるべきです。

そこで本計画では、観光地マネジメントの国際的なフレームワークであるVICEモデル（来訪者：Visitor、観光事業者：Industry、地域住民：Community、自然・文化：Environment and Culture）の4つの視点を軸とし、それぞれの役割と関係性を重視することとしました。



行政が推進する「観光振興」の形

観光振興ビジョン

海とまちが交わり、暮らしと旅が共鳴するタウンリゾート

～住むほどに旅になる、旅するほどに好きになる、潮騒と夕陽がところをつみこむまちを目指して～

私たちのビジョンは、海の恵みと街の機能を一つの日常としてつなぎ、その中で暮らし(町民)と旅(来訪者)が互いの価値を高め合うまちをつくることです。副題の「住むほどに旅になる、旅するほどに好きになる」は、その循環の約束を具体化した表現です。住む人には毎日に発見と誇りを、訪れる人には関わりと再訪の動機を生み、だれもが潮騒と夕陽を共有財として愛せる状態を目指します。

海とまちが交わりとは 海の自然(夕陽、潮騒、海風)と、街の機能(商業、文化、住まい、公共空間)がシームレスにつながり、歩いて心地よく回遊できること。海の時間が街を育て、街の多様性が海辺を豊かにする—その相互作用を、私たちの手でデザインし続けることです。

暮らしと旅が共鳴するとは町民の誇りと来訪者の愛着が響き合い、再訪・長期滞在・関係人口化へ広がること。「住むほどに旅になる」、「旅するほどに好きになる」という循環を、日々の気づきと優しい実践で育てていくことです。

5 基本方針



来訪者の満足度向上、観光産業の活性化、町民との共生、自然・文化の保全、そして誰もが安心して観光を楽しめる安全なまちづくりの5つの観点が、本町が目指す観光振興の方針となります。

1. 来訪意欲・満足度の向上

来訪者

北谷町ならではの多彩な魅力や体験が広く発信され、多くの人々が訪れたいと感じる観光地となるとともに、来訪者が心から満足し、再び訪れたいまちを実現します。

2. 継続的・発展的な観光産業の推進

観光事業者

観光事業者と、そこで働く観光従事者の双方が持続的な成長と働きがいを実感できる環境が整い、地域経済を支える中核産業として発展することで、雇用の創出や新たなビジネスチャンスが生まれる活力あるまちを目指します。

3. 町民の観光理解・ホスピタリティの向上

町民

観光による地域への影響を適切に調整し、町民の暮らしと観光がバランスよく共存できる環境を整えます。そのうえで、町民一人ひとりが観光への理解と誇りを持ち、温かいおもてなしの心で来訪者を迎えることで、地域全体が一体となって観光を支えるまちを目指します。

4. 自然・景観・文化資源の保全と活用の推進

自然・文化

豊かな自然や美しい景観、地域固有の文化資源が大切に守られ、次世代に継承されつつ、観光資源としても魅力的に活用される持続可能なまちを目指します。

5. 安全・安心・快適な観光地地域づくりの推進

安全・安心

誰もが安心して快適に過ごせる環境が整い、災害やトラブルへの対応体制も充実した、安心して訪れることのできるまちを実現します。

6 施策



観光振興ビジョン

基本方針

基本施策	施策	重点施策	主な取り組みの想定	
的確な 情報発信	A マーケティングに基づく町内外への情報発信	1 情報発信の考え方の整理や観光統計データの収集・分析	-- 情報発信の考え方の整理	
		2 効果的なタイミング・手法による情報発信	-- 観光情報センターを拠点とした観光情報の発信強化	
		3 町民の理解の醸成	-- 町民向け情報発信の充実	
	魅力あふれる 受入環境	B 観光コンテンツの拡充	4 来訪目的となる景観づくりと維持	-- 観光・商業地の道路空間の賑わい創出のための環境整備
			5 地域特性を活かした体験型アクティビティの充実	-- ダイビング、フィッシング、クルージング等、海を活かしたマリンスポーツ・マリナクティビティの充実に向けた環境整備
			6 食のPRや案内の強化及び食を通じた観光の魅力向上	-- グルメ案内情報の充実
			7 地域特産品やお土産の開発・販路拡大の支援	-- 地産品のプロモーション、販売支援
			8 北谷ならではの自然・文化の保護と積極的な活用	-- 地域の誇る伝統芸能（エイサー等）・文化の活用
			9 新たな来訪動機の創出	-- 沖縄県と連携したスポーツ合宿等の誘致促進
C 観光人材の充実			10 観光振興やおもてなしに貢献する人材の育成	-- 観光事業者等を対象とした観光人材の育成
D 施設・インフラの拡充			11 各種施設の拡充・多様化	-- 北谷公園（運動公園）の施設再整備の検討
E 来訪・町内移動の交通の充実			12 北谷への各種移動手段の周知促進及び駐車場の最適化	-- 美浜駐車場の機能拡充検討
	13 来訪者に向けた町内移動利便性の向上	-- 町内移動手段の拡充		
	14 沖縄来訪における交通結節点機能の強化	-- 観光2次交通結節点の整備に向けた沖縄県との連携		
F 自然と文化の保護保全	15 無形の文化資源の保護保全と継承	-- エイサー、獅子舞等の伝統芸能の観光コンテンツ化による伝統の維持継続		
	16 自然・有形の文化財の保護保全と維持管理	-- 有形文化財の保存整備の推進および活用		
G 地域との共生	17 ルール・マナーの周知と遵守の徹底	-- 観光客へのルール・マナー啓発		
	18 観光産業の発展と町民生活の品質の両立	-- 町民に対する観光サービスの利活用検討		
	19 町民とともに地域一体となった取り組みの推進	-- 各種事業の改良や新規事業検討に係る町民との意見交換		
安心感ある 観光地	H 安全・安心な観光地運営	20 観光危機管理体制の構築	-- 観光危機への対応	
		21 治安の維持・向上	-- 行政、警察、事業者、町民等が協働したまちの安全性確保	
		22 多様な人々が安心して訪れることができる環境の整備	-- ユニバーサルツーリズムの推進	

7 重点施策



重点施策は、貢献度、影響範囲、実現性、緊急性、波及効果、政策・想い、満足度の7つの観点から選定しており、町として集中的な資源配分と効果的な推進を図ります。これにより、限られた資源のもとでも、町の観光振興に大きなインパクトをもたらす施策を着実に実現することを目指します。

施策1. 情報発信の考え方の整理や観光統計データの収集・分析

観光施策を実施していくための、具体的なターゲット等設定に必要な本町の観光情報を整理し、「誰に、何を、どのように伝えていくか」の基本的な考え方を示します。また、取り組みはその時々状況の変化に合わせて柔軟に対応していく必要があり、観光統計データ等の収集及び分析に基づく施策の検討をはじめとした取り組みを継続的に進めます。そして、これらを公開できるようにしていきます。

主な取り組み 情報発信の考え方の整理

施策4. 来訪目的となる景観づくりと維持

来訪目的となる魅力ある景観づくりと、ゴミや落書き等への対応を進めていきます。また、植栽の整備・メンテナンス、道路の除草頻度の向上等、滞在の質の向上に向けた美観の整備・維持を進めます。

主な取り組み 観光・商業地の道路空間の賑わい創出のための環境整備

施策10. 観光振興やおもてなしに貢献する人材の育成

観光人材不足の解消や、観光事業従事者とのコミュニケーションが来訪者の満足度を高めることを目指し、観光産業に関わる人々や有志の町民に対する観光案内や接遇の研修などを通じて、観光人材のスキル向上とホスピタリティの強化を図っていきます。また、観光DX推進などに貢献できる人材育成も推進していきます。

主な取り組み 観光事業者等を対象とした観光人材の育成

施策12. 北谷への各種移動手段の周知促進及び駐車場の最適化

移動利便性の良い観光地を目指し、本町への各種移動手段の周知促進に取り組むとともに、駐車場の機能拡充の検討や運用の最適化を進めていきます。

主な取り組み 美浜駐車場の機能拡充検討

施策13. 来訪者に向けた町内移動利便性の向上

あらゆる来訪者が柔軟に町内を周遊できるよう、来訪者に向けた町内の移動手段の拡充や散策・街歩きの整備等を進めていきます。

主な取り組み 町内移動手段の拡充

施策17. ルール・マナーの周知と遵守の徹底

本町のルール・マナーの周知と遵守をあらゆる手段を用いて徹底するとともに、来訪者がルール・マナーを遵守しやすい環境を整備していきます。また、宿泊事業者の適切な運営を促進し、近隣住民や利用者にとって安心な環境づくりに努めます。

主な取り組み 観光客へのルール・マナー啓発

施策20. 観光危機管理体制の構築

地震、風水害、感染症(パンデミック)等、来訪者の安心・安全を損なうとともに観光産業の停滞、及び観光経済の縮小を招く観光危機への備えとして、平時における減災対策(危機対応の成熟度向上など)から復興時における回復(域内需要喚起策など)までの一貫した取組を推進し、観光危機管理体制の構築を図っていきます。

主な取り組み 観光危機への対応

8 計画の推進



推進体制の中核を担うのは「本町への集客効果を最大限に発揮することにより、商観光業の振興及び町全体の活性化を図り、町政の発展と町民福祉の増進に寄与することを目的」としている北谷町観光協会です。

この観光協会を中核として、町、観光関連団体、観光事業者及び町民(自治会や町民の各種団体を含む)が、情報交換や意見交換を通じて相互に連携しながら、計画の実現化や進行管理等を行います。また、各主体が本計画で示された目指すべき方向性を共有し、必要に応じて活動を支援しながら、観光まちづくりの推進を図ります。

また、沖縄県、OCVB(沖縄観光コンベンションビューロー)、近隣自治体などの町外のステークホルダーとの連携を強化し、広域連携・垂直連携における協働による観光マネジメントも図っていくこととします。

